

第2期仙台市地域保健福祉計画の評価案

Ⅲ 仙台市地域福祉専門分科会による評価

全体評価

【仙台市地域福祉専門分科会による評価】

- ・地域福祉活動の推進にあたっては、その充実に向けて継続的な取り組みが必要であり、これまで培われてきた各実践をさらに充実・深化させていくことが重要である。
- ・地域におけるつながりの希薄化等により、見守り活動や日常的な生活支援を行う担い手が不足している一方、市民の共助意識や社会貢献意識の高まりも確認されていることから、多様な主体が地域活動に参画しやすい環境づくりを一層進める必要がある。
- ・地域福祉活動を活発に展開していくためには、地域の中のリーダーの存在が欠かせないが、その反面、人材の固定化や役割の重複などによる負担感への懸念もあるため、新たな人材の育成と併せて、活動のリーダーとなる人材の負担を緩和する支援も求められる。
- ・地域の力を高める上で、地域ごとの課題共有や様々な主体によるネットワークが今後も重要となる。復興公営住宅建設地域を中心に活動を進めているコミュニティソーシャルワーカーの実践は住民主体の支援体制づくりにおいて、一定の効果を挙げているが、少子高齢社会において、地域住民が効果的な活動を行うために、さらなる充実が求められる。
- ・災害時要援護者支援体制の構築にむけて、各地域の実情に合わせ、工夫と積極的な取り組みが行われているが、より一層の推進を図るため、制度を必要とする要援護者への周知と併せ、体制づくりが遅れている地域においても、取り組みやすくなるような支援にも取り組んでほしい。
- ・今後ますます支援を必要とする人の増加が予測される状況において、専門機関による相談支援と住民による共助は、地域福祉推進の両輪として、互いに補い、より大きな支援力として効果を発揮していくことが期待されることから、さらなる連携を進める必要がある。